

セセクまつり '86 来る。

「木の日」イベント、
今年は浜松で盛大に。

〈お祭りコーナーイベント〉

□ミス「木の精」コンテスト——書
類選考をハスした20名の美女が「森
林オーナー」めざしてミス「木の精」
にチャレンジします。

□その他イベント ― アトラクション（葵陣太鼓）、チャリティーオークション、エアロビクスショーなどなど。

〈屋外イベント〉

「ミニ木造上棟式とおもち投げ」
本物の上棟式をそっくりそのまま再現。大工さんの木やり唄としめくくりには都合十俵のおもち投げも。

□その他イベント——木工工作広場
(トンカチ号)、オガ粉山の「宝さか
し」、大型木製遊具広場、青空市場、
植木市のほか「ウッティマーケット」
(木製品展即会)など多彩なイベン
トを展開します。

組合員各位には、一般消費者同伴
で是非共ご来場下さるようご案内い
たします。

大集合!

本年度「木の日」週間のイベントについては、本紙第43号にて既にお知らせしたとおり、西部地区単協10組合で組織する連絡協議会（稲勝哲夫会長）を母体とする実行委員会や西部地区木青連7会（岡田林業、建築両業界を加えた運営委員会（村越省吾委員長）で各種催事計画、予算等の検討を進めてきました。

そこで、61年度「木の日」イベントもくもくまつり'86の概要をお知らせします。

一般消費者

お得意さん同伴で



〈テーマイベント〉

□マウス実験パネル展示、VTR上映——ハツカネズミを用いて、本造の優良性を科学的に立証するため、静岡大学農学部にて研究委託したマウス実験の第1次中間結果（ハツカネズミの成長率、生存率、解剖による各臓器の発育具合等）を公表。

□伝統の道具展、木製生活用具展と
実演会——「木」との長いつきあい
の中で日本人の生活習慣から生まれ
てきた木の道具、生活用具のすばら
しさを実物展示。

□苗木から木造住宅までのパネル展
——育苗・植林、下刈り、除伐・間伐、
枝打ち、伐採、集材・搬出、製材、
木造住宅。と一連の木の流れを紹介。

□児童生徒木工工作コンクール展示会——11回目を数える県木青連主催のコンクール、県下全小中学校対象の優秀作を一堂に展示。

□「木の迷路」脱出作戦——20m四方のスリル満点の「木」の迷路。遊び心一杯の中で「この木なんの木」クイズで、しっかりとメッセージ。

セセキより'86大盛況!

「木の日」静岡県大会

二〇〇部回収）によると、新聞広告と折り込みチラシによる誘客効果が絶大で、その他テレビ、ラジオのマスコミ利用や案内状の発送など、きめ細かな作戦が功を奏したようだ。

また、各種イベントの中で、興味を持って見たものを三つあげてもらったところ、一番人気は「木の迷路」この木な

……」「苗木から木造住宅までのパネル展示」、「マウス実験VTR等」と、遊び心のあるものよりも、生活に密着した展示に興味が集まっていた。

今後の開催については、「今後も開催してほしい」が九五%、「もうひと工夫ほしい」が五%と、今後の開催を望む声が圧倒的だった。

を踏まえ、来年度は「新しい生活様式にあった新しい商品」と企画で、消費者を巻き込むイベントとし、実需に向けたまつりにしていきたいと考えている。

なお、西部地区としては、来年度以降も、規模を縮小して、独自のまつりを行っていく方針で、早くも準備が進められようとしている。



誘客作戦大あたり

去る十月十日祝、浜松市総合産業展示館において、より多くの消費者に木の持つ魅力を十分に味わってもらおうと、多彩なイベントを盛り込んだ「もくもくまつり'86」が盛大に開催された。会場には、浜松市民を中心に、三万余の家族連れが詰めかけ、終日賑わった。

一番人気は「木の迷路」

予想をはるかに上回つた来場者に、一時は入場制限をするなと続いた。

来年度に向け始動

後日開催された実行・運営委員会反省会では、予想を上回る人出に対応しきれず、多々の反省点も出されたが、人を集めて本と遊ばせるという所期の目的は十分に達成し、大成功だったといえる。

「しまだ型住宅」公開

木のコーナー、島田市産業祭のよびものに。



④トンカチ教室、⑤イベント広場など。
トンカチ教室では、総勢五〇〇名を超える親子が来場、汗をふきふき日頃使い慣れないカナヅチやノコギリで、スノコ、本立て、腰掛などに熱心に取り組みました。

イベント広場では、
①木くずの宝さがし、
②丸太押し競争、③丸太切り競争、④馬の再現などを行い、終日子供達のはしゃぎ声が会場にこだま、業界あげての木の良さをPRは大成功裡に終了しました。

もくもく砦に、子供達の歓声

——天竜木協発



「西部木材需要拡大推進協会」では、浜松、天竜木協の青年部を実行団体に、十月十七、十八日開催の「第二回浜松秋まつり」に参加、西部「もくもくまつり'87」を行った。
来場者は両日で二万五千名を数え、初日の午前中まで台風十九号の影響で、準備などに大苦勞したことが報われた。

イベント内容は、
①樹種標本展示 — 各種原木製品を展示。
②「もくもくドーム」 — トラス円形ドームを建設、その中で住宅相談コーナーやマウス実験ビデオの放映等を行った。
③親子木工工作広場
④木製遊具広場 — 全てに木を用いた砦型のブランコ付大型すべり台「もくもく砦」は、子供達に人気を博した。
⑤木製おもちゃの子供広場などで、どのコーナーも家族連れで終日賑わった。

ひろがる… 秋のイベント

島田木協
つうしん

本年も沼津市で「もくもくまつり'87」が盛況裡に終了し、木の日週間を中心とした行事も一段落。ここにご報告する3地区の事業は、全県のまつりとは、またひと味違った、今後の地域に密着した催事の在り方を考えるうえで、大きな示唆を与えてくれる3者3様の素晴らしいイベントである。

産業祭は、十月九日、十一日、島田市役所前を中心に開催され、島田木協、島田十日会が力を合せ、数々のイベントを展開、多くの市民に、木の良さにじかに触れ、親しんで頂くことができました。

イベント内容は、
①しまだ型住宅のミニチュアモデル展示、
②木の標本展示、
③木製品展示即売、

島田市と民間住宅関連産業の団体により構成される木材需要拡大対策委員会が、地域環境にマッチした機能的、かつハイグレードな魅力ある21世紀の快適な住まいづくりを創出することを目的に、「ウッドコラム工法」を研究開発したもの。

その特徴は、

- ① 構造・支柱に6寸角を使用。
- ② 土台、床組に6寸×3.5寸角を使用。
- ③ 屋根、梁組、登り梁使用と垂木の組方改良。
- ④ 材料の規格寸法化。
- ⑤ 各所軒先の長さを改良。
- ⑥ 建築工事のスピードアップ。

「しまだ型住宅」って？

10月25日、富士市農林水産フェアが、公設市場で開催された。従来の農林水産フェアに林材が加わった初めてのイベントで、約3万5千人が来場、文字通り立錫の余地なしの賑わい振りをみせた。

林業コーナーでは、富士ひのき柱取り素材、10.5cm角、12cm角の製材品特等から4面無節までの柱角が展示され、来場者は地元材ということで非常

田子浦港木協発

「イネ」と買うことは違う。

に高い関心を寄せ、種々鋭い質問が出されていた。当組合の木製品展示即売コーナーでの一番人気は、モロ箱とスノコ、少し時期は過ぎたが、涼み台も人気を保っている。家庭用品では、まな板、はし等の安価な小物が主流。総じて年々木に対する関心は高まっていると肌で感じられるが、「イネ」と、買うこととは違う。いまいち、というところは、やはり値段か。

しかし、木のPR、とりわけ富士ひのきのPRには、またとないイベントだった。

もくもくまつり'87盛況

運動会気分で木と触れ合う



チャレンジ

ギネス

材木屋ならではの企画と、一番の注目を集め、テレビ、新聞で報道された500mの木製ベンチ。



▲チャレンジ・ザ・ビューティー

約150名の応募者の中から選ばれた'87ミス「木の精」。これから1年間、各地でのイベントのお手伝いをしていただきます。

▼チャレンジ・ザ・ゲタ

主催の各団体対抗の競歩ゲタレース、みなさん必死で歩きました。



去る十月十一日(日)、沼津市・沼津埠頭において、国際居住年記念事業「もくもくまつり'87」が開催され、一万五千名の家族連れで終日賑わった。

今年のまつりは、「ウッドディ・チャレンジ・カーニバル、モリモリやる木の運動会」をキャッチフレーズに、より多くの消費者に秋の一日を運動会気分を味わいながら、「木」に親しんでいただくようと、盛りだくさんの催しを用意した。

今回のまつりを担当した東部地区では、打合せと準備作業に連日追われたが、各木協と青年部が一致団結してこれにあたり、特に青壮年各会団では、結束力の強化と自信が培われたようだ。

最終運営委員会(反省会)では、多額の経費を投入して実施したイベントだが、屋外会場であるため、非常にリスクイナ面があり、開催直前まで天気予報に一喜一憂。この辺の対策や、準備の立ち上がりが遅れたことが反省点として上げられ、来年度への申し送りとして、何よりもまず開催地(会場)を早急に決定し、金・人・企画などの準備に十分に時間を掛けることが成功の第一歩としている。

来年度担当の中部地区の皆様を期待したい。



▲第2会場(沼津市・富士急百貨店)

マウス実験のパネル展示・VTRの上映、住宅相談コーナー、木工展作品展示などを行いました。

広報 もくれん 1988 9

⑤ 情報キャッチボール

●編集と発行 静岡県木材協同組合連合会
静岡市追手町9番6号(県庁西館9階)

☎(0542) 52-3168(代)
購読料1ヶ月 3,000円
(会員は会費に購読料を含む)

セセキまつり '88

住宅月間記念事業
木遊びワンダーランド

Go!



'88事業計画(案)

■開催日 昭和63年11月5日(中)～6日(日)

■会場 (別紙案内図参照)

■イベント広場(カーニバルランド)

オープニングセレモニー(トーテムポール寄贈式、木遣り、もちまき)
森の音楽隊(ぬいぐるみバンド)

木遊びパントマイム

コミックパルーンショー

'88ミス「木の精」コンテスト

トーテムポール製作実演・展示会

丸太かつぎ、丸太切り、丸太押し

カラーBOX早組み競争

チェーンソーは最高!

レディースアームレスリング

クイズ「ニアピンオークション」

第13回静岡県児童生徒木工工作コンクール表彰式(県木青連主催)

夜のアトラクション(中部地区芸能) 外

■第2会場(ワンダーランド)

大型木製遊具広場

「大独楽」展示実演会 外

■第3会場(クラフトランド)

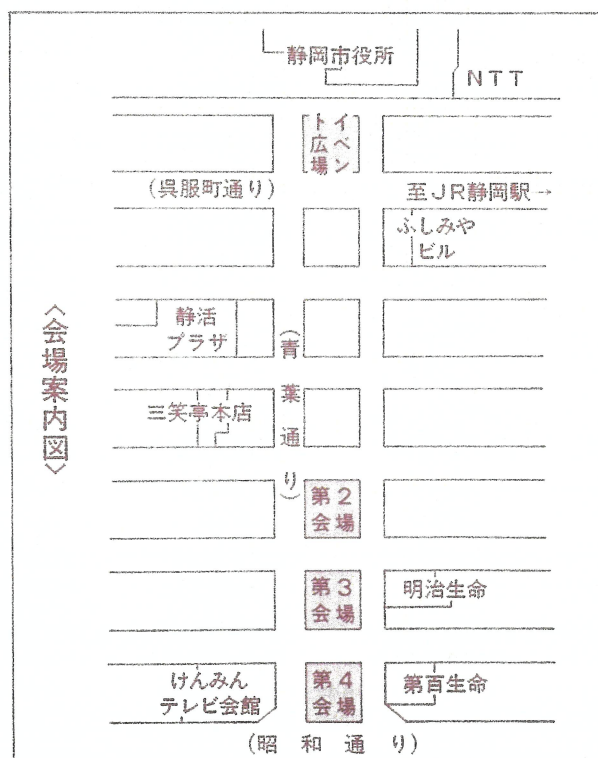
親子木工工作広場(移動木工教室「トンカチ号」)

木の住まい写真展 外

■第4会場(マーケットランド)

青空ウィディマーケット(木製品、林業特産物の展示即売) 外

※各会場のイベントは、若干変更する場合があります。



9



大忙しの役員

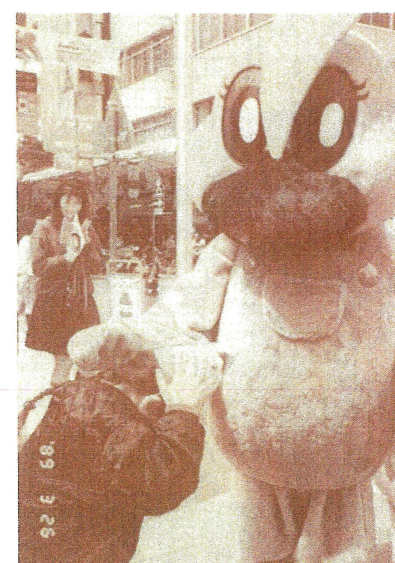
加工のしやすさを体験



ザ・積み木王に挑戦!

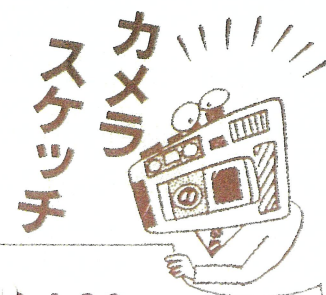


引張り強度を説明するスタッフ



大人気の「もつくん」

■'89.3.26(日)
■静岡市 青葉緑地



セセキまつり '89

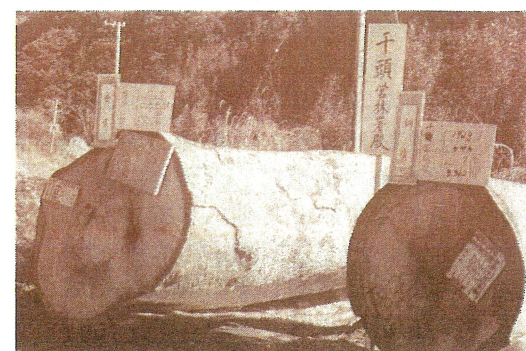
初の市街地イベント

盛況 18,000名

単協
つうしん

高級化ブームの波に乗る。

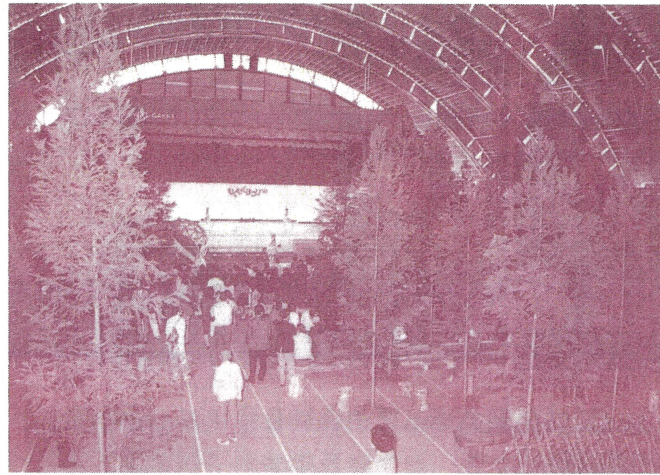
静岡県内外広葉樹協同組合
事務局長 草野 致 夫



全国優良広葉樹素材展示即売会、好調のうちに終了。
恒例の第二十一回全国優良広葉樹展即売会が、去る三月一日、展示会場を清水市蛇塚、入札会場を「静岡平安閣」に求め、全国から二〇〇名を超える買方を迎えて開催された。けやきの静岡内外広葉樹(協)にふさわしく、良質で多量の丸太が会場を埋めつくし、数ある展示会の中で一際光った。今回は、全国二十五営林署より銘木クラスをはじめ、中国からの特別参加のタモ、ナラ五八〇mを含め、二千mの逸品が揃い、m単価一〇〇万円を超える物が続出した。

展示会場では、今回の展即売会の目玉といえるケヤキ(千頭営林署より出品の玉杵)が買方の注目を浴びた。この材は、八十四cm×長さ四・二m、材積二・九六四m³という大物で、m単価四八七九千円、一本単価約一、五〇〇万円と、当展示会が始まって以来の高値を記録した。当日の売上額は約三億六千万円、前年の売上を大幅に上回る実績をあげることができた。

現在の家具の高級化ブームの波に乗り、本展示即売会が盛況裡に終了できたことをご報告するとともに、関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。



- ① ミス、準ミス「木の精」決定ノ
- ② セミナーの合同、ミュージックでひと休み
- ③ 稲勝実行委員長あいさつ
- ④ 実行委員の皆さん、オープニングセレモニーに勢揃い
- ⑤ 東海文化専門学校の協力によるファッションショー
- ⑥ 木の香をただよわせた杉木立のメイン会場
- ⑦ 木製遊具広場で子供達に囲まれる「もっくん」

もくもくまつり '90

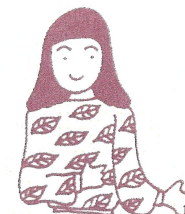


を振り返る

去る10月10日、秋恒例の催事「もくもくまつり'90」が、浜松市体育館と浜松城公園において、約8,000名の親子連れを迎え、盛会裡に開催されました。

そこで、催事の裏方というべきイベント責任者の皆様に、今回のまつりを振り返ってご意見をいただきました。質問事項は次の3点。

- Q1. 担当イベントの狙いは？
- Q2. 結果(来場者の反応、反省点など)は？
- Q3. 今後の留意点は？



ウォッチングワイド⑪



敢えて挑戦する姿勢を

運営委員長／河島壮太郎(二俣十八日会)

- A 1. お祭り一辺倒のPRを脱却して、消費者の側に立った知的サービスとしてのセミナーの開催、社会の変化と時流を的確にとらえた環境保護問題のPR。
- A 2. 新しい物への取り組みがいかに大変であるかという事を知らされた。しかし、敢えて挑戦する姿勢とエネルギーが、これからの業界を支えるものと信じていた。
- A 3. 時間と金の効率を高めた運営に心がける事。業界人全体が自らの問題として、イベントに参画すべきであると思う。

質的転換を

住まいのセミナー／坂本修平(太田川木青会)

- A 1. 多様化、個性化する住まい造り、住まい方において、豊かな生活を創造するためのひとつの素材として、木の持つ機能と自然性を消費者に知っていただくこと。
- A 2. 「木」という根底にあるテーマ性が、最終消費者に日常化されていないため、ややもすると焦点ボケに陥り易い。参加者への働きかけもこの点がポイント。
- A 3. 今後賢い消費者が増えてゆくことを考えれば、ことセミナーに関して言えば「知っていた内容」から、「提案し、使っていた内容」へと質的転換を図ること。

異業種とのタイアップを

ミス「木の精」コンテスト／野口尚久(天竜材友会)

- A 1. ミス「木の精」を選ぶことと、賞品が杉松の山林という話題性を持たせることにより、マスコミおよび一般の人達に、木の持つ良いイメージを強力にPRする。

足元を見詰め直す時期

フォレストinファッションショー／渥美隆一郎(天竜材友会)

- A 1. 一般来場者誘客において、地場産業である繊維関係との異業種交流によりお互いのPR活動ができればと。
- A 2. 森の中のファッションショーという設定で、音、光、香りの演出により、来場者には好評であった。業界のイベントとしては、初の試みのため、演出効果をあげるため、相応の費用と時間を費やした。
- A 3. 木のPRは十分浸透できた。業界内の祭りで終わらないよう、各地区においてのPR活動も必要だが、次回には、足元(人、環境等)を見詰め直す時期ではないか。

主催者も楽しめるものを

木工工作広場／小出文明(二俣十八日会)

- A 1. 実体験をとおして、より多くの皆さんに、木の持つ良さと木材で物を作る喜びを味わっていただき、一日楽しく過ごしていただくこと。
- A 2. 当日は大変な賑わいを見せ、担当スタッフはフル回転だった。しかし、夢中で作品を作っている子供達の姿を見ていると、疲れも癒される気がした。
- A 3. 主催する側も楽しめる催事でなければ、参加される皆さんも楽しい思いはできない。今後は、木材に対する感謝祭的なものにしていけたらと思う。



住まいと

パネリスト／有馬 孝禮氏(東京大学農学部林産学科助教授)
／室久敏三郎氏(静岡県西部浜松医療センター院長代行)
／松本 肇氏(前静岡県立富士山麓「山の村」所長)
／山口 祐子氏(賛同人建築研究所主任研究員)
／稲勝 哲夫氏(もくもくまつり'90 実行委員長)
／田中 孝治氏(静岡県政経研究会付属地域・産業研究所長)

コーディネーター
／田中

東北地方では、脳卒中の死亡率が非常に高かったのですが、屋外トイレという住まいの構造が指摘され、その改良に伴い減少してきました。住まいの建て方は人間の体に影響します。木ということだけでなく、大きな意味で住まいを考える必要があります。

高齢での急激な環境の変化は痴呆を招くなど、健康に影響します。極論ですが高齢化社会に向け死ぬ時のことを考えた住まいづくりも必要です。

(コーディネーター・田中)

先程、木造施設には子供達への教育的効果があるというお話が出ましたが、それは、子供達が日常的に木と接していないための物珍しさだけではありませんか？

(松本)

物珍しさがあることも確かですが、それよりも、コンクリートの柱はぶつかる怪我をするが、木ならばたいした怪我をしなくて済みそうだと、木材の持つ柔らかさを子供達自身が感じとり、精神的にリラックスできるようです。

(山口)

最近の住宅は二十年未満で建替、増改築されますが、私は、なんとか五十〜六十年保つ住宅をと考えます。ただし、木造住宅の場合は、特にメンテナンスが大事です。働きかけなければその美しさ、寿命を保てません。

また、家を建てる時は、近隣に配慮しながら、全体の景観の中で自分も参加して新しい環境を作ることが必要です。その中で、大工・工務店さんなど技術を伝承する方々が、

地域に根差していく環境を作らねばなりません。それを育てていくのが、消費者であり、業者の方でもあります。

同じ土俵で。

(有馬)

「石」「木」などの専門用語は、一般消費者には通じません。まず、同じ土俵に乗ることが必要です。

また、長期的な視野に立ち、木材教育について、学校など教育関係者へのアプローチをお願いいたします。

(コーディネーター・田中)

社会の要求に対する供給側の姿勢が今後の課題になるかと思っています。

本日の企画はこれまでになく斬新、かつ重要な試みではないかと感じています。まだ問題点の糸口に入ったかです。是非次の機会を早くお作りいただきたいと思います。

(稲勝)

ご批判、ご指摘もありますし、改良すべき点もありますので、業界として前向きに対応して行きたいと思っています。

健康を考える

「もくもくまつり'90」の一環として、4回シリーズで開催された「住まいのセミナー」。本紙では、有馬孝禮東大助教授の「マウス実験と住みごこち」基調講演の後、パネルディスカッションが行われた第3回セミナーを……。



木は空気に近い。

(コーディネーター・田中)

有馬先生からの問題提起を受け、まず、木材・木造住宅の特質について、次にユーザーの変化とこれからの課題を、供給する側がどう受け止め、どう進んで行くべきかを考えて行きたいと思っています。

(有馬)

木に囲まれていると「心地よい」というのは、木目の幅の変化(ゆらぎ)によるものです。また、「落ち着く」というのは、木の茶色が紫外線を吸収し、疲れにくいからです。九十℃にもなるサウナの中を、素足で歩けるのは、木に空隙があり、それが断熱材となり、非常に穏やかな状況で人間と接するからです。

人が触れても支障がない。そのポイントは木材が空気に非常に近いということです。

(松本)

「山の村」は、富士山の国有林地に、三二〇㎡の宿泊棟が十一棟、一、三〇〇㎡の多目的ホール、七八〇㎡の管理

棟からなる大規模木造施設です。(本紙第六四号参照)

多目的ホールは、当初鉄骨でと考えていたのですが、湿気の多い土地柄、結露を防ぐ方法がなく、これが木造ですと全く問題になりません。

実際に子供達が利用してみても、教師と子供、子供同士のコミュニケーションづくりに非常に効果的です。

建設段階では、木材の価格変動の一番大きな時期にかかったために予算が不足し、何箇所かを合板で対応するなど苦労をしました。

(室久)

マウス実験では、コンクリートケージのマウスは、ストレスをおこしました。これが長時間続きますと、体に害を起こします。木造のマイルドさは人間を冷えから守り、細胞を活性化させます。医学的にみても理にかなっています。これからの住まいは高層建築にならざるを得ません。その中で、いかに木の特質を生かすかが大事です。日本独特の近代的な住まいの在り方、

高齢化社会に向け、死ぬまで健康でいるにはどうしたら良いかを考えねばなりません。

(山口)

昭和三十年代の学校建築は、文化性の高い、地域のシンボリックな存在でしたが、高度成長期以降、効率だけを考えた学校建築が進められてきました。最近ようやく、精神と環境とが非常に深い関係にあり、「山の村」のように環境に気付きはじめました。

豊かな環境の中に「住む」ということは、私達にとってかけがえのないことです。何が快適で、何が欲しいのかを実証する時にきています。

(稲勝)

医学的に木がどう体に良いのかはわかりませんが、松の葉を刻んで結核菌を培養しますと、菌が半減すると言います。そのせいか、結核療養所の多くは海岸の松林沿いにあります。

近ごろ森林伐採による環境破壊が話題になりますが、日本は再植林できる針葉樹を植

会場とのQ&A

Q、病院の入院室、床くらいはフローリングにしたら？

(室久)

これだけ日本が豊かでありながら、病院というものは、居住性が考慮されていません。

尼崎の県立病院では、手すりをはじめ多くの木が使われており、非常にマイルドで心が和みます。我々の病院も将来はこうありたいと思っています。

Q、どの程度木材を使えば、効果ある木造住宅に？

(山口)

床、壁、柱など触れる度合いの強いところから木を使われたらいいかと思いますが、Q、ふんだんに木を使った家は高いのでは？

(山口)

家を建てられる方は、まず、鉄骨か、RCか、木造かと迷われるのですが、私共では、コンクリートのローコスト住宅は居住性が悪いので、内装に相当お金をかけられる方であればお勧めしません。

予算については、木材代金は、総コストの二割です。銘木を使うということをしなない限り殆ど問題になりません。

優良丸太が一杯

ご来場を
お待ちしております。



本会では、来たる十一月十日(土)、第七回静岡県優良素材普及展示即売会を開催いたします。各地の優秀な素材がふんだんに集まりますので、是非ご来場下さい。

会場

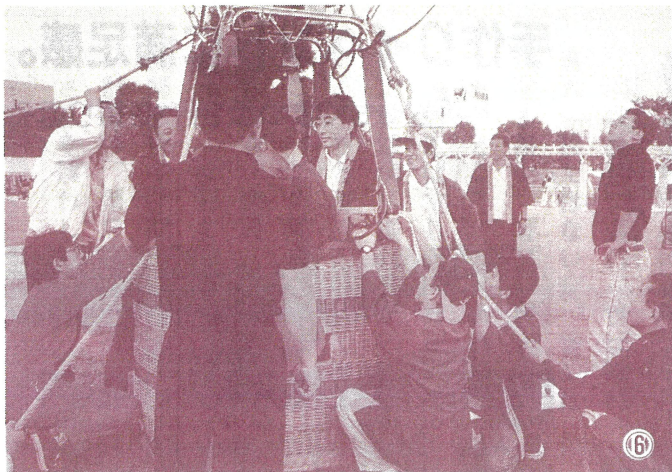
島田市御請二二九
スエン(株)

出品材

計 二、二〇〇㎡
国有林 五〇〇㎡
県営林 一二〇㎡
民有林 九四〇㎡
その他 六四〇㎡

入札

当日十一時三十分より開催される表彰式が終了ししだい開札に入ります。



①雨やどり
②もっくん、だあいすき！
③杉山修一実行委員長あいさつ
④突然の雨に……
⑤主催者代表勢揃い
⑥慎重に、初フライ
⑦会場を一望しようと、長蛇の列

手作りイベント

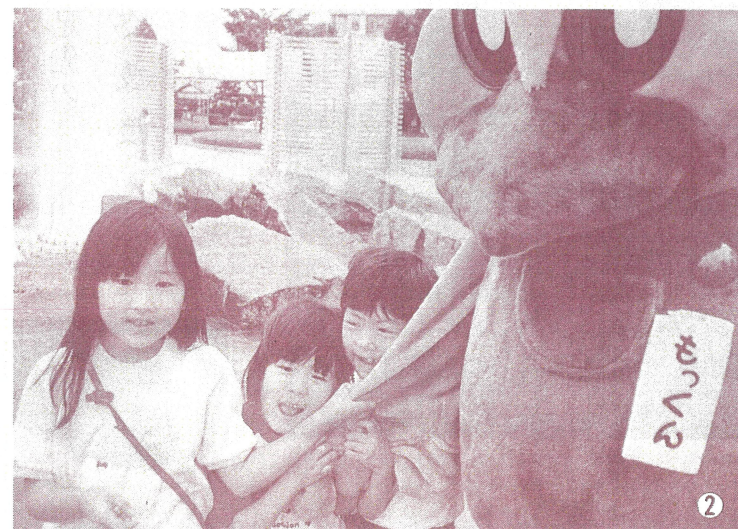
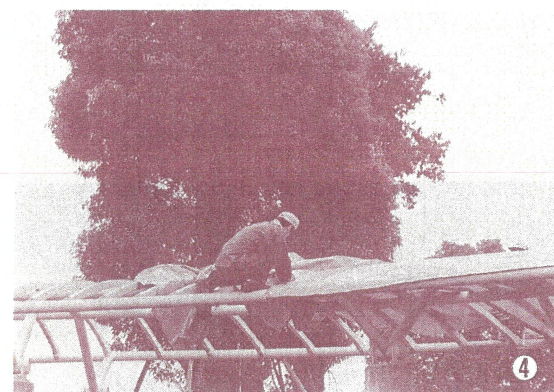
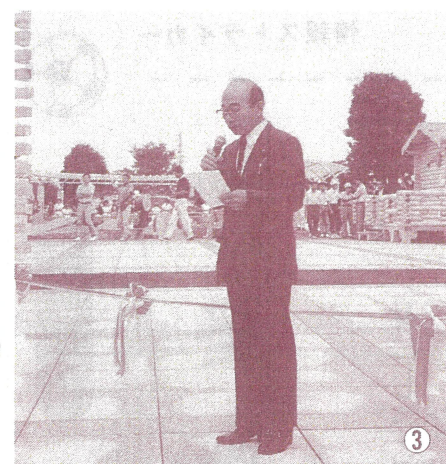
去る10月6日(日)、秋恒例の催事「もくもくまつり'91」が、富士市中央公園において開催され、盛況裡に終了しました。自力・コンパクト予算、地区内の持ち回り運営等初の試みはいかに。催事の裏方ともいうべき運営委員会の各イベント責任者の皆様に、本年度事業を振り返りご意見をお寄せ願いました。質問事項は下記の3項目。なお、正副委員長には、まつり全般へのご意見を伺いました。

- Q1. 担当イベントの狙いは？
Q2. 結果(来場者の反応、反省点など)は？
Q3. 今後の留意点は？



に満足感。

「もくもくまつり'91」を振り返る



●運営委員長／横山貞治(沼津木材青壮年会)

- ① 今回は、東部地区組合員の拠出した従来の半額程度の経費で運営したが、自分達の手で、自ら拠出した経費で一般消費者に「木」を訴えるのが大原則と思う。
- ② 一市町村および周辺の二、三町村単位で「もくもくまつり」を行ったらどうか。各地区の特色が出せるし、行政や地元の同業、他業者等との連携も深めることができる。これを県下一斉に実施したらどうか。

●運営副委員長／川口直之(田子浦港木材青年部会)

- ① 小さい予算ゆえに、各種のイベントを手作りで行ったことが、結果的に成功につながった。
- ② 東部木協、青年部会団、行政等の協力が得られた。
- ③ 多額の資金をかけた派手なイベントは行うべきでない。

●運営副委員長／市川 仁(富士宮木協青年部会)

- ① イベントのプロに依存する事なく、素人集団でも手作りのまつりを行うことができた。しかしその反面会員の「労務的負担」に課題が残った。
- ② 大きな「木の日」のイベントも良いが、キャンペーン方式を一部考えたかどうか。

●会場設営・熱気球／鈴木 弘(富士宮木協青年部会)

- A1. 広い会場を明確に案内する。その看板により木材業界のセンスの良さをアピールする。熱気球は集客の目玉。
- A2. 会場の評判は上々。熱気球も十分楽しんでいた。
- A3. 手作り看板にはかなりの労働力を要した。経費を掛けるか、量を減らすか考えたい。規模は小さくても、話題性があり、参加者も主催者も楽しめる企画が必要。

●広報・催事記録／西川達夫(富士宮木協青年部会)

- A2. 広報活動のスタートが遅れたので、チラシ作成も遅れ、配布先も検討不足。町内会の回覧板を利用したかった。
- A3. 連日まつりの企画、準備に追われ、仕事に支障が出るくらいに負担を感じたので、実施方法等検討の余地があると思う。広報担当者は、開催地の市役所、記者クラブ等と連携を密にしておく必要がある。

●開会式・記念式典／秋山永示(田子浦港木材青年部会)

- A1. より多くの人達に「もくもくまつり」の主旨、木の良さを知っていただくこと。
- A2. シンプルでスピーディーな開会式は好評だった。記念式典は悪天候のため観客の動員が少なく、寂しかった。
- A3. 天候に左右されない方法で、消費者参加型のセレモニーや式典を考えても良いのでは。

●「木の日」体験バスツアー／渡辺利則(田子浦港木材青年部会)

- A1. 消費者に「富士ひのき」をイメージし、「自然を護る」ことを理解していただくと共に、「木」というものをあらためて、見て、触って、使っていたこと。
- A2. 参加者には非常に喜んでいただけたが、私達の知識が足りず、参加者に十分な説明ができず残念だった。

●マーケットランド・スタンプリー／畔柳敏男(田子浦港木材青年部会)

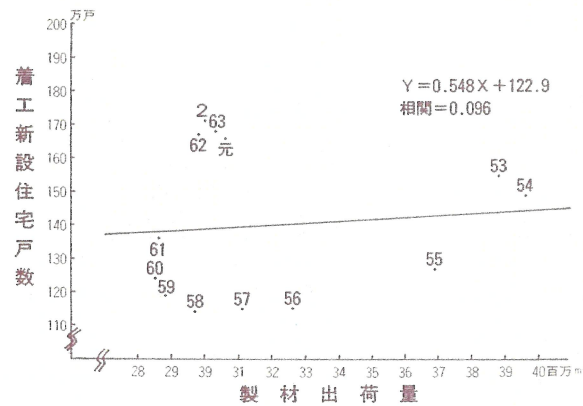
- A1. 来場者に木材関連のイベントであることを認識していただけるような出展者と、会場で楽しんでいただくための出展者とを的確に配置する。スタンプリーをしながら、会場すべてをまわっていたこと。
- A2. 楽しませる部分と買わせる部分を明確に。

舌代

「歌は世に連れ、世は歌に連れ」程ではないが、嘗ては、住宅と製材、琴瑟の間柄であった。ところが、過去四年間住宅着工は忙しかったが、製材工場は余り振わなかった。最近、ちと疎遠の気味である。そこで、この両者の関係を農林水産省、建設省等の資料によって、検証することにした。回帰直線や相関係数等の難しい計算は、県庁林政課の大石剛さんを煩わした。

住宅と製材
いまの関係

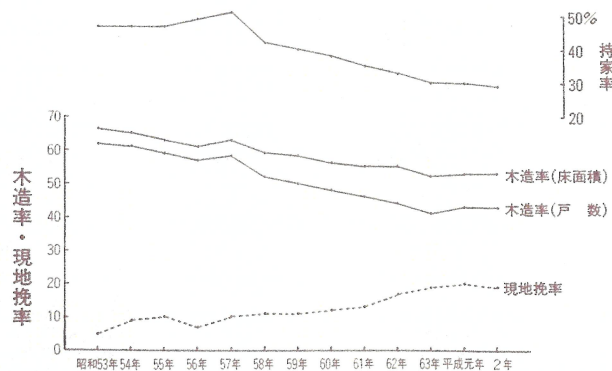
図-1 着工新設住宅戸数と
製材出荷量の関係



低い相関

昭和五三年から平成二年の間の着工新設住宅戸数と製材工場からの出荷量の関係を図化すると図一の様になる。昨年迄の四年間、着工戸数は一七〇万戸前後に伸びたにも拘らず、製材出荷量は五〇年代後半の着工戸数一二〇万〜一三〇万戸時代と大して変わらず、三千万㎡見当に過ぎなかった。当然、両者の関係は希薄になり、相関の度合いも〇・〇九六と、無相関と言って良い程の低さである。

図-2 持家率、木造率、現地挽率



三つの因子

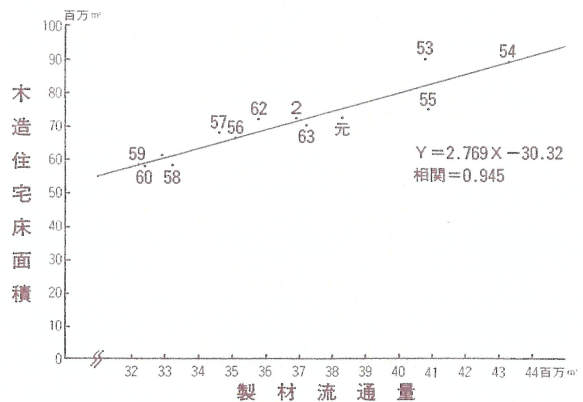
着工戸数と製材出荷量の相関が低くなった因子は幾つか考えられるが、ここでは三つ取り上げてみたい。

① 今度の住宅好況の主役は貸家と分譲住宅だった。木材を沢山使ってくれる持家の比率が三割を切った。

② 住宅の木造率が下がり、床面積は未だしも、戸数の木造率は四割台前半に下がった。

③ 国内の製材流通量に占める現地挽の比率が高くなり、二割に達している。

図-3 着工新設木造住宅床面積と
製材流通量の関係



高い相関

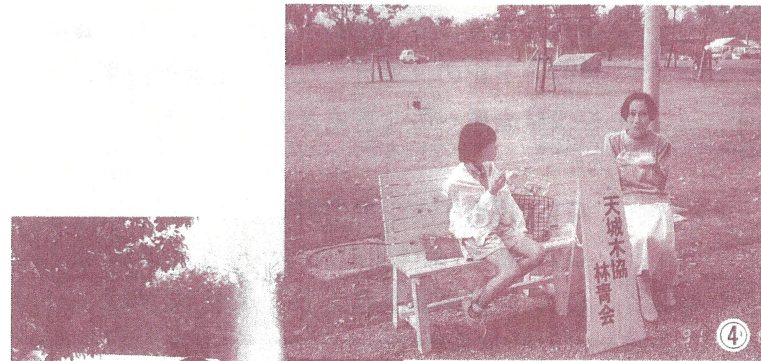
そうは言っても製材の用途の七、八割は建築用。住宅と製材の接点で、何か欲しい。そこで、着工新設木造住宅の床面積と、製材流通量(製材工場出荷量と現地挽輸入量の合計)を組合わせてみた。現地挽輸入量が増え始めた昭和五三年からの傾向を見ると、図一三の様に、両者の関係は緊密で、相関の度合いも〇・九四五と高い。木造住宅の浮沈が製材の消費に及ぼす直接的な影響は依然として大きい。

手作りイベントに満足感。

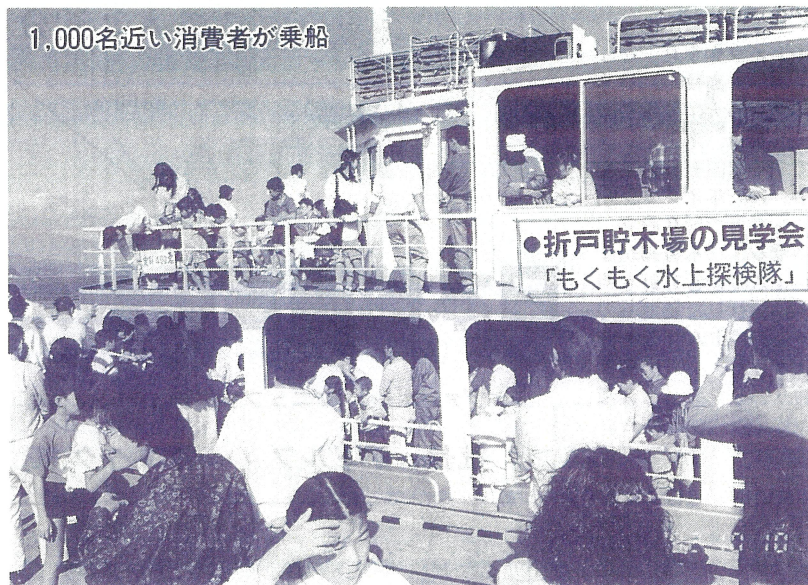
「もくもくまつり'91」を振り返る



- ①どこを見つめて?
- ②二〇余名が参加、体験バスツアー
- ③人気をさらった重須孝行太鼓
- ④ベンチで一休み
- ⑤ミス「木の精」も大活躍
- ⑥横山貞治運営委員長の手締め



- 父の手作り・木の参観日／伊藤亮一(富士宮木協青年部会)
 - A 1. 消費者に、木材(間伐材)の利用方法を理解していただくと共に、作品を幼稚園等公共施設へ寄贈することによる話題性と、子供達に木に触れる機会を与えること。
 - A 2. 雨天にも対応できるように会場の選定を。
- 親子木工教室(小物入れ)／井上 久(富士宮木協青年部会)
 - A 1. 親子で手作り体験し、木に触れていただくこと。
 - A 2. 最初から指導者を頼りにする人が多く、特に大人の女性には、完成品を購入したいという意向が強い。
 - A 3. 開催地は運営が大変。
- 親子木工教室(木のハガキ)／内藤武夫(富士宮木協青年部会)
 - A 1. 身近なもので木に親しみを感じていただくこと。
 - A 2. 年少の子供連れが目立ったが、もう少し幅広い年齢層の来場者を期待したい。
 - A 3. 来場者全員に、アンケート等によりPR効果の確認ができるという。
- 重須孝行太鼓／勝又重政(富士宮木協青年部会)
 - A 1. 集客と会場の雰囲気盛り上げること。
 - A 2. 雨さえ降らなければ、非常に良い効果がある。
 - A 3. 天候の影響で大きく狂い、残念だった。会場の設定を第一に考慮すべき。



1,000名近い消費者が乗船

●折戸貯木場の見学会
「もくもく水上探検隊」

地域に即し、

去る10月10日、秋恒例の催事「もくもくまつり'92」(村松幸一実行委員長、中野仁運営委員長)が、清水市・マリニビル、日の出埠頭において開催され、大盛況のうちに終了しました。

本紙では、催事の裏方ともいべき運営委員会の各イベント担当者の皆様に、本年度事業を振り返り、ご意見をお寄せ願いましたので、その一部をご紹介します。

無理なく継続を。

「もくもくまつり'92」を振り返る



富士を遠望する屋外会場



オープニングセレモニー・テープカット

全般

一、「もくもくまつり'92」は…

- ① 関心がアトラクション的なものに向き、「木」への関心がいまひとつ。このあたりが大きな課題。
- ② マリニビル内の会場の飾りつけや、海外出展内容をもう少し充実したかった。
- ③ 総じて木材輸入港・清水の持味をPRできた。
- 二、今後のまつり開催は…
- ① 企画の中心を「木」に置きつつも、食べ物・飲物、無料配布・抽選、ショー的要素を充実させ、複合バランスに留意。
- ② 行政(市町村)とのタイアップをできるだけ早めに、確実に。
- ③ 専門家がある程度入れ、企画に幅を持たせたい。あまり手を広げず、担当者の負担を減らし、余裕を持って進めたい。
- ④ 主役はあくまで「消費者」。式典やテープカットも来賓、一般来場者、主催者の三者が楽しめる新しい企画を考えたい。
- 三、経費は…
- ① 今後継続するためにも、地域にあった方法で行い、決して無理をしないこと。

② 共催団体の資金面での理解を。

- ① 結果、来場者の反応
- ② 今後の留意点

記念式典、オープニングセレモニー、ジュレンジャーショー

- ① 人出も多く、良かった／記念式典の来賓挨拶が多すぎた／予算の割りに木材PRが少ない。
- ② もっと「木づくし」の祭りでもよかったのでは。

環境・科学館「なるほど・ザ・木材」

- 巨樹、巨木の写真パネル展
- ① 県内にこのような巨木があることを知らない人が多かった。
- ② 集客方法の再考。異業種との合同イベント。開催日の再考。
- 商社コーナー・環境問題パネル展およびビデオ放映
- ① 残念ながら一般市民で関心を持ち、腰を据えて見ていた人は少なかった。
- 海外木材企業コーナー
- ① パネル展示が良かったので、関心を持って見ていた。
- トーテムポール競作展示
- ① 屋内会場での展示は、非常に

会場内を引き立たせた／製作した学校の生徒達をまつりに参加させたかった。

- ② 一般来場者が直接参加できるようなイベントを多く／経費の拠出は全県下で。

木材工芸、木材造形展

- ① ステージイベントが終わると、マリニビル内の人が少なくなってきた。室内イベントをもっとアピールできたら。

静大森林資源科学科コーナー

- ① 牛乳パック活用のボード、スギ抽出成分によるゴキブリ忌避剤など身近な展示に興味が良い。
- ② 来場者が直接参加できる企画が良い。

お休処「日の出茶屋」

- ① 農協関係者の協力もあり、来場者に満足いただけたと思う。

A、大型木製遊具広場

- ① 多くの方が来場し、楽しみながら遊んでいた。
- ② 雨対策上は、屋内、屋外両方に広いスペースが必要。
- 大独楽展示実演、水上平均台
- ① 事前に「休憩用イス」や「女性スタッフ」の希望調査があったが、実際には割り当てがなく、

何のための調査だったのか。

- ② 予算が厳しく、新たに木材を加工し、遊具を作成するのは不可能。

● パズル、年輪クイズ、ダーツ

- ① 子供達には大変な人気だった。
- ② 地域のマスコミ等と共同企画し、十月八日前後は「木の日」のイベントが毎年行われることを強くPRしたい／つまらない死金を使わないこと／単なる客寄せのイベントは不要。

B、木工作広場「トントン」

- ① 大好評／道具を放置して帰る人が多く、管理が難しい。
- ② 約一年の時間を費して準備したうえ、一千万円もかけ、もったいない。どの程度業界のPRになったのか？ もっと実益につながる企画を／県住宅展に、県木連が関連業界と大型ブースに出展していたが、これを発展させ、東京、大阪リビングショーへ静岡県産品を展示PRするなど。

● 折戸貯木場の見学会

- ① 一千人近い消費者が乗船し、大成功！！
- ② 無料サービス、プレゼントは

集客に役立つ。そこから木に親しんでいただければ良い。

C、イベント広場

- 米材荷役大型作業機械展示
- ① ランバージャックの運転席に子供達を乗せたのが良かった。
- 丸太切り競争、宝さがし
- ① 各コーナーとも人だかりが。各地域の実情に即し、それぞれの規模で／マスコミ、企業等に協賛願うのも一つの方法では。要は知恵／「集客が目的」となっているといけない。あくまで手段であり、中身の濃さが問題。

D、青空マーケット広場

- ① 朝市では消費者との交流がうまくいった／他業界にも働きかけるべきだった。
- ② 出展者間の交流、勉強が必要／消費者とのつながりを深める。
- ウッディショップもくもく
- ① 「実用品以外の点」での消費者の木材に対する意識は低い。木材PRはまだ不十分。

● 軽食コーナー「満腹亭」

- ① 「ゴミ対策」についてより細かな計画が必要だった。
- ② 軽食コーナーだけを考えれば、

今後、早飲み、早食い、大食いコンテストも考えられる。

警備、保健・衛生

- ① 警備は外国船の船員の行動に注意が集中した／大きなケガ人もなく、まずはヤレヤレ。
- ② 「各地域ごとの特色」を出せば良い／子供が集まるショー的イベントは必要。

受付

- ① 大きな問題もなく終了、大成功／屋内、屋外双方に受付を設けたので、マスコミ対応がやや手薄になった。

女性スタッフ「ミスの精」

- ① 各イベント担当者を楽しそうに仕事をしていた。
- ② 来場者が一度に参加できるようなイベントができると良い。

広報

- ① テレビ、ラジオ、新聞など多くのマスコミに取り上げられた。
- ② めいぐるみ「もっくん」のように、次回へ持ち越せるもの、他のイベントで使用できるものを少しずつ製作したい。



誰のため?

目的、運営、

何のため?

再考の時…。

秋晴れの好天に恵まれた10月10日、「もくもくまつり'93」(稲勝哲夫実行委員長、渥美隆一郎運営委員長)が、浜北市・県立森林公園において開催され、約20,000人の来場者で終日賑わいました。

本紙では、催事の裏方ともいうべき運営委員会の各イベント担当者の皆様に、本年度事業を振り返り、ご意見をお寄せいただきましたので、その一部をご紹介します。



① ぼくらの戦利品
② デート気分でウオーケラリー
③ プロの技術に思わず拍手



- 「もくもくまつり'93」は…

新しい試み、木材PRタイム

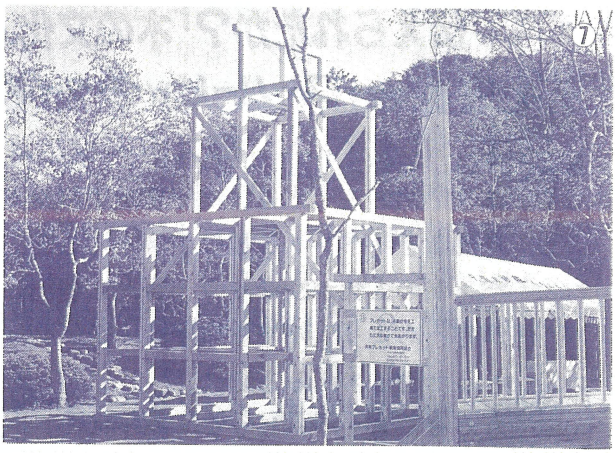
 - ① 参加者が多数あり、大成功。
 - ② 天気もよく、多数の来場者があったが、会場が広いせいか舞台の上からみると、もう少し来場者があればと思った。
 - ③ 自然環境豊かな会場のため、来場者の反応はすこぶる好評。ただ、会場が三カ所に分散していたため、他の会場の様子がわかりにくい点があった。
 - ④ 地域業界PRイベント・木材PRタイムを通して親組合が企画内容に参加し、青年部だけのイベントから親組合参画のイベントに変革できた。
 - ⑤ 大人の来場者に、知的感覚で訴える企画が少なかった。

経費については… 右と左に別れる意見

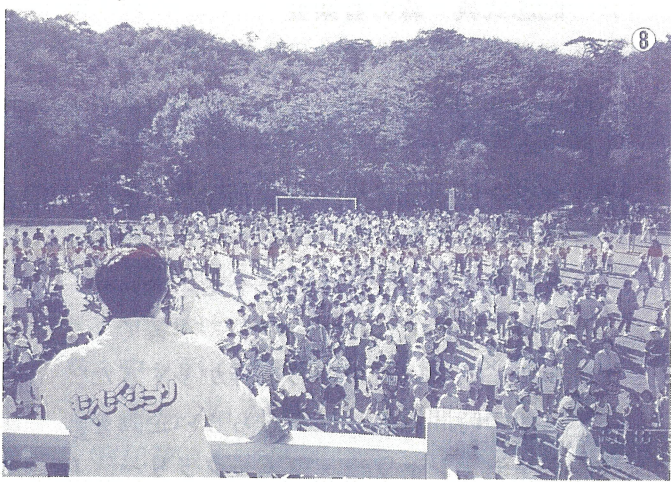
- ① まず始めに総務関連予算を確保し、残りの予算でイベントの企画をしたい。
- ② 組合員からの負担金はやめ、県木連の事業費と市町村の助成金だけで賄うのが良いのでは。
- ③ 誰のための「もくもくまつり」なのかを考えると、組合員の負担が、全予算の半分というのは少ない。組合員の理解が必要。
- ④ 基本的資金の確立が必要。

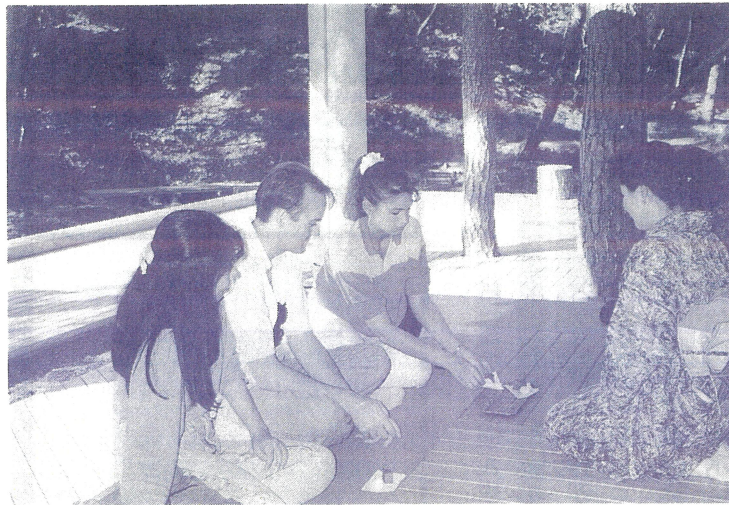
「もくもくまつり」の今後は… 反応がほしい

- ① 親組合に「自分達業界のPRイベント」という意識が浸透していない。
- ② 「もくもくまつり」に対する組合員の意識調査を行い、今後の参考に。
- ③ 県木青連の会員だけが主に行動することに疑問。
- ④ 個々の負担を少なくするため、プロの導入が必要。
- ⑤ 我々業界が意図することを訴えかけ、反応がある企画をほしい。
- ⑥ 各会議員が参加できる企画も。
- ⑦ 木造家屋の良さのPRをもっと、もっと。
- ⑧ 「遊び」だけの企画にするか、セミナーなど「勉強会」的な企画にするか方向性をはっきりさせたい。
- ⑨ 東中西部の各地域が互いに「他地域に負けないように」という意識が先走っているのでは。誰のための、何のための「もくもくまつり」なのか、考え直す時。
- ⑩ 三年に一度回って来る花火的なイベントでは、いつまでたっても消費者に理解されないのではないか。運営委員への負担も重く、三年後にまた同じようなことを行うのは…。
- ⑪ 「木材需要拡大」という観点からみると今のイベントの形には疑問を感じる。もう一度考え直す時期。



④ 稲勝実行委員長あいさつ
⑤ 天狗の中はフワフワ天国
⑥ 作文コンクール表彰式
⑦ ウッディランドの展示
⑧ もくもくクイズに挑戦





森林に囲まれたお茶室で…



アピールできたか?

—— 初の試み、木材PRタイム

F. 地域業界PRイベント・木材PRタイム

- ① 実行団体である親組合の参加意識を高めること。まつり、遊びというだけでなく、直接消費者に向かって言葉でPRすること。
- ② 3ヵ所でテレビコマーシャル的に行ったが、かなり真剣に聞いて下さった方がいた。初めての試みとしては上出来だと思うが、もう少し聴衆がほしかった。屋内で行う方が効果的だったかもしれない。
- ③ 1千万円の経費を掛けるならば、せめて2日間開催したい。標語のステッカーのような年間を通してのPR活動を検討したい。

G. ウッディランド

- ① 業界の商品を展示し、宣伝普及をはかる。
- ② 参加賞付のクイズには400名程の参加があり、参加者は熱心にPRコピーを読んでいた。参加賞を数多く用意すれば、もっと参加していただくことができたので残念。
- ③ これだけの集客をするのであれば、業界の直接的なアピールをする場面がもっとあっても良い。毎年でなくとも、2日間開催を検討してみてもどうか。

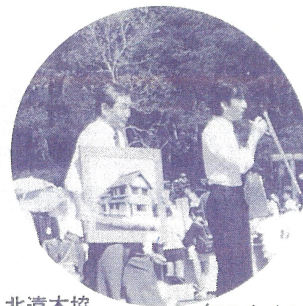
H. お茶会、草笛教室

- ① 自然環境の中で、伝統的な茶道や手づくりの草笛に触れていただく。
- ② 多くの方にゆったりとした時を過ごしていただけた。

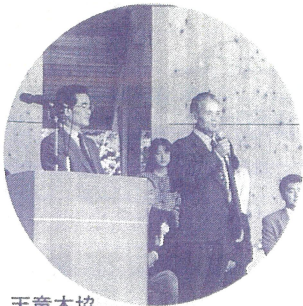


誰のため? 何のため?

目的、運営、再考の時…。



北遠木協



(PRタイム) 天竜木協

投資効果は?

集客狙いのサッカー、恐竜

D. 圧巻「ジャンボ恐竜」体験 フワフワ天狗

- ① 子供達に楽しんでいただき、思い出に残るものとする。流行の恐竜に乗り、高所から会場の全景と森林を楽しんでいただく。
- ② 両企画共約1,500名が参加、結果は最高。遊園地ではまず体験できない恐竜だった。整理券の木札「恐竜スタンプ」は非常に喜ばれ、子供達が大切に持ち帰った。
- ③ スタッフの人選と気持ちの一致が大事。

3年に1度担当となる行事であるだけに、できる範囲で行いたい。会員への過度の負担は継続していく上で問題が。

やり過ぎ、行き過ぎ、経費の使い過ぎのなきよう、息長く継続していくことが大切。

E. フリーマーケット・森林の市

- ① 我々にしかできないサービスの提供と「木へのこだわり」のPR。
- ② フリーマーケット/21店、森林の市/16店、木造構造物展示/9展示。好天に恵まれ、飲食等のテントは大盛況だった。荷物になるような品物の販売は、駐車場が遠くて持ち帰りが不便なため、あまり売れなかった。
- ③ 各担当3名程度は、1ヵ月位前から運営委員会に出席し、来場者に説明できるよう、全体の流れを知っておく必要がある。

企画にあたり、イベント業者、広告代理店を相談役におくとしても、運営の主体はあくまでも業界、組合のメンバーによる「手づくりの企画、参加」が大切。



気田川木協



(PRタイム)

天竜木協
浜北木協
磐田木協

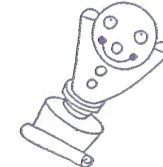
成果は? にかに?

—— 常に人気の木工工作

■つどいの広場

A. 親子木工工作教室

- ① 消費者参加型企画として、「木」の存在を見直していただく。
- ② 参加者500余名と大盛況。反省点として、釘、ボンド等の消耗品の補充が不十分だったこと。
- ③ トップは担当者を信頼し、任せてほしい。青年部の負担が大きすぎる。必要に応じ、親組合も会合には始めから参加されたい。



伝えられたか? 「木の文化」

—— スーパービッグ・クイズ

■スポーツ広場

A. マーチングバンド

- ① 来場者をイベント広場に誘導すること。
- ② バンドの人数が少なすぎ、音が広範囲に届かず、あまり人が集まらなかった。
- ③ もっと動きのあるものに。

B. もくもくスーパービッグ・クイズ

- ① クイズの内容を通して木材、木材業界のPRをすること。緑豊かな会場で、クイズを通して「木の文化」を学んでいただく。
- ② 約1,500名の来場者が参加し、最高に満足のいけるものであった。シナリオを1ヵ月かけて作成した甲斐があった。
- ③ 木のアピールだけでなく、アトラクションにお客様が参加することも大事。

C. サッカーゲーム「オーレ!」

- ① 木に関心がない人達にも、人気のサッカーを通してまつりに参加していただく。
- ② 多数の参加者があり好評。
- ③ 規模を縮小し、会員の負担を少なく。



静かな音色に魅了された森のコンサート



浜松木協

- ① イベントの狙い
- ② 結果、来場者の反応
- ③ 今後の留意点

音色は? にかに?

—— 木製楽器の音楽会

■イベント広場

A. 記念式典・森の音楽会

- ① 来場者にも式典の挨拶を聞いてもらえればと、開始時間を遅らせ、その前後にコンサートをもってきた。
- ② 会場が他の2会場と離れた場所にあり、身内だけの式典となってしまった。親組合、一般消費者への呼びかけが不足。コンサートも森の雰囲気は出ていたが、誘客できなかった。式典は、来賓の祝辞が多すぎた。
- ③ 式典の時間短縮。材木屋らしい企画を。

B. グリーンシャワー・ウォークラリー

- ① 会場全体を見ていただくこと。自然を楽しんでいただくこと。
- ② 4,000名を越す大勢の参加があり、自然を満喫していただけた。

C. 中学生作文コンクール・

「森の家」宿泊体験



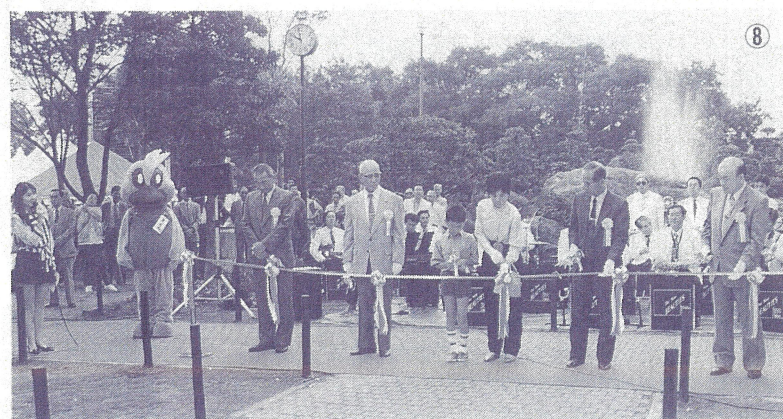
- ① 未来の消費者となる中学生にスポットを当て、木材に対する考え方、把え方、接し方を探る。
- ② 過半数が森林破壊をテーマに取りあげており、間違った教育とPR不足を痛感した。
- ③ 県下同一のキャンペーンを各地で行うなど、視聴覚に残ることを続けていきたい。

⑥ 業界PRにも一役、

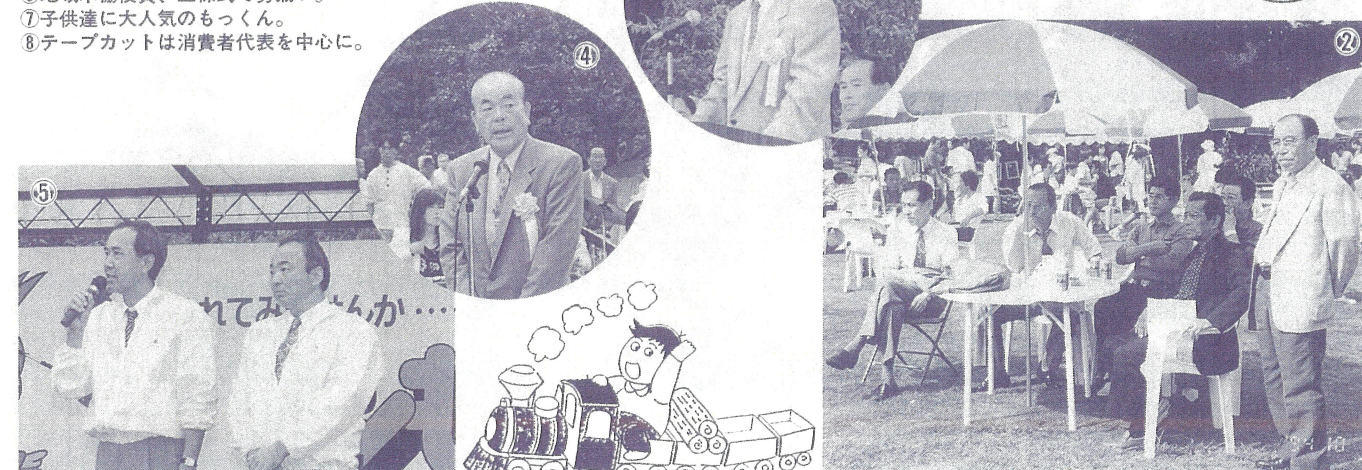
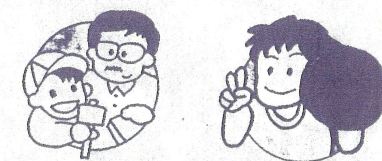
ふれてみませんか…木と水のハーモニー

好天に恵まれた10月9日、「もくもくまつり'94」（稲葉進実行委員長、高橋昭博運営委員長）が、清水町・柿田川公園において開催され、約20,000人の来場者で終日賑わいました。今回は東部地区、その中でも田方地区が担当となって進められました。

本紙では、催事の裏方ともいうべき運営委員会の各担当者の皆様に、本年度事業を振り返り、ご意見をお寄せいただきました。



- ①湧水群で遊ぶ子供達。
- ②式典の進行を見詰める顔、顔、顔...
- ③高橋孝三協議会長あいさつ。
- ④稲葉進実行委員長開会あいさつ。
- ⑤名コンビの高橋、増島正副運営委員長。
- ⑥地域木協役員、上棟式で勢揃い。
- ⑦子供達に大人気のもっくん。
- ⑧テーブルカットは消費者代表を中心に。



● 大成功、多数の来場者に嬉しい悲鳴。

運営委員長／高橋昭博（三島林社会）

- ① 地理的条件、天候に恵まれ、多数の来場者を迎えることができた大成功。ただ、柿田川公園の素晴らしさをもう少しレイアウトに取り込めたら良かった。
- ② 原生林見学の参加者を、もっと広範囲で募集したかった。
- ③ 企画については、コンセプトをしっかり考え決定したい。また、企画立案の段階から三業界の人材の参加を求めたい。
- ④ 経費については無理なく手当てできる金額で。

● 毎年開催、見直す時期？

運営副委員長／増島光一（天城木協林青会）

- ① 予想以上の来場者のため各コーナーで景品が不足、人数把握が甘かった。
- ② 次回担当時には、予算、運営人数等の問題で実施できるか疑問。毎年開催という大前提を見直す時期。
- ③ 餅まきはせめて午前、午後の二回実施したかった。

● 知恵を絞った予算の有効活用。

会計担当／白井明男（天城木協林青会）

- ① 無理のない予算内で、会場のスペースを有効に活用することを考えながら、各担当に振り分けることに留意した。
- ② 企画決定後に市町村からの助成金等を受けることになったため、その分をいかに有効活用するか知恵を絞った。
- ③ 市町村の助成金を受ける場合は早くからの対応が必要。

● マスコミで話題、業界PRに。

広報担当／大川紀次（三島林社会）

- ① 幅広い年齢、職層の参加者の動員を心がけた。

- ② テレビ、ラジオ、新聞等多くのマスコミに取り上げられ、業界PRにもなったと思う。また、当日の昼のニュースを見ての来場者もあり、テレビの重要性、確実性を感じた。
- ③ 学校において生徒への広報がなされなかったのが残念。

● 多額の経費、一日で使い切るのはい...

会場設営担当／田村壮一（三島林社会）

- ① 限られたスペースで、ロケーションを生かした効率的な企画配置を心がけた。多数の来場者で賑わい満足。
- ② スペースに限りがあったが、できればもう少しアミューズメント（娯楽）がほしかった。
- ③ 多額な予算を一日で使い切ってしまうのではもったいない。当日午後開始、ナイター、翌日午後までという日程も考えられる。その場合でも準備期間の人的労力はあまり変わらないと思う。

● スムーズに誘導、無事故で終了。

駐車場担当／鈴木文久（伊東青年木材連合会）

- ① スムーズな車の誘導を心がけ、無事故で終わらせることができた。ただ、借りた駐車場のオープン時間が遅く、周辺の渋滞を招いたが、その後はスムーズに誘導できた。
- ② ガードマンは多数の方が良い。
- ③ 駐車場係は地元会員の方が適任。

● 小作り、でも充実した良いイベントに。

推進事務局／飯塚昶子（田方木連・天城木協事務局）

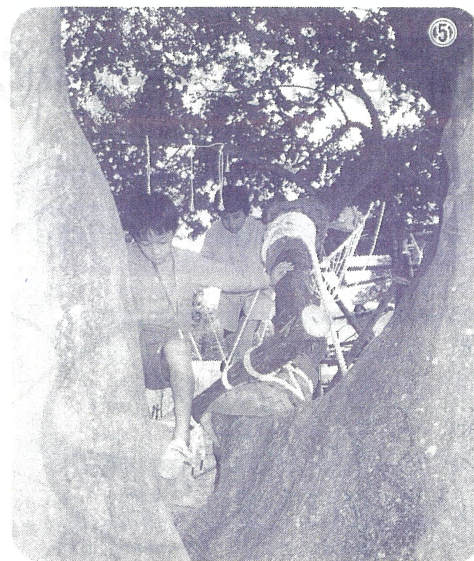
- ① 内容的に小作りではあるが、充実した良いイベントとなった。できれば「木と湧水」にもう少しこだわりたいかった。
- ② 運営の都合上、上棟式を前日に行ったが、当日実際に見たかった方も多かったようだ。



⑤ ひやひやのアスレチック。
⑥ 水辺で憩う親子連れ。
⑦ 餅なげに来場者やんや。
⑧ 三島しゃぎりで景気づけ。
⑨ 立派なスノコは親子合作。



業界PRにも一役、



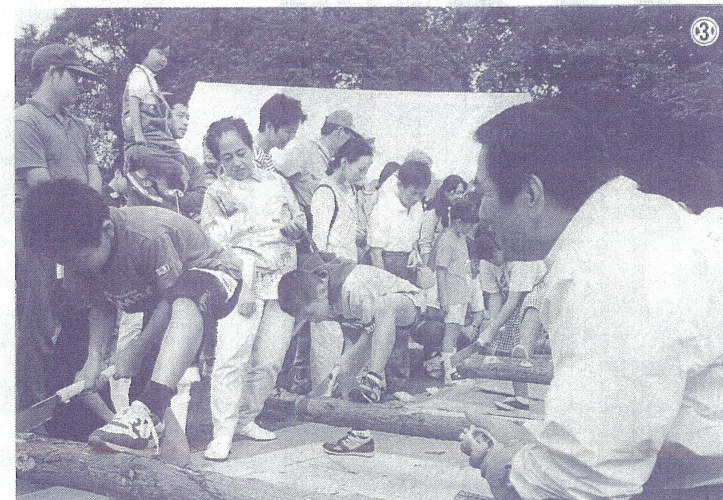
もてまつり'94

質問事項は次の3点。

- Q1. 担当イベントの狙いは？
Q2. 結果、来場者の反応、反省点は？
Q3. 今後の留意点は？



① 壮大なブナに見入る。
② 早朝ウォーク1、2、3。
③ きこり気分で丸太切り。
④ 水当てクイズに挑戦！



●「オープニング記念式典」荒木田六郎（伊東青年木材連合会）

- ① 式典時間の短縮を心がけた。
- ② 来賓の人数、祝辞等、例年より絞り込んだため、短時間で終了でき、好評だった。
- ③ 記念式典等に一般来場者をどう巻き込むかが研究課題。

●「出店ブース・ボイスカウト」 岩崎宗弘（三島林社会）

- ① 出店ブースはイベントの賑わいを出すため、ボイスカウト活動を生かした企画としてアスレチックを設置した。
- ② 来場者に楽しんでいただけ、大成功で大満足。
- ③ 夜も含めて二日かけて行っても良い。

●「餅まき、やんや上棟式」 田村壮一（三島林社会）

- ① 来場者の方々に木造住宅をアピールし、餅まきで集客をはかる。業界関係者にも、正式な上棟式を見ていただく。
- ② 予想以上の来場者で、セレモニーの進行状況がわかりにくかった。「あげ物」が少し不足したようだ。来場者の中には、本気で上棟した建物を欲しかった方もいたようだ。

●「もくもく親子トンカチ教室」 芹沢正樹（三島林社会）

- ① より多くの方々に木に親しんでいただき、その扱いやすさをPRすると共に創作性を強調する。
- ② 参加者数約千名。本立、スノコのキットを用意したが、違うものを作っている方も。作業スペースが少し狭かった。

●「スタンブラリー」 土屋喜久（天城木協林青会）

- ① 柿田川公園の利点を生かし、チェックポイントでクイズを行い、木や水のことをより深く知っていただく。
- ② 参加者を一五〇名程度に見込み、賞品も用意したので、

●「体験！きこりの広場」 鈴木文久（伊東青年木材連合会）

- ① 子供達にのこぎりで木を切ることを体験していただく。
- ② 参加者四十名。大人も子供も楽しみながら真剣に行っていた。事故や怪我もなく、スムーズに行うことができた。
- ③ 今後実施する場合は、手引きのこぎり大会もよいのでは。

●「湧水コンサート・三島しゃぎり」 桜井敏幸（三島林社会）

- ① 祭りの雰囲気高め、聴覚的にも視覚的にも楽しんでいただく。
- ② 反応は良く、熱心に聞いて下さった方はもちろん、他のイベントの参加者にも喜んでいただけた。
- ③ もう少し簡単にできるような形にしたい。式典等はあまり大袈裟でない方が望ましい。

●「ミニしゅっぱ試乗会」 鈴木忠雄（天城木協林青会）

- ① イベントの盛り上げと木材の搬出手段のPR。
- ② SLを出出しの運搬手段としていたことを知らせる飾り付けを施さなかったことは反省。ミニSLはとも精巧にできており、大人にも子供にも人気が高かった。
- ③ 継続しても良いと思うが、東部地区の組合順ではなく、全体の事業としていかなければ今後の開催は大変。

●「函南原生林体験バスツアー」巨大ブナを見よ 鈴木文久

- ① 地元で有名な函南原生林を歩いていただき、日本有数のブナの木など、自然を楽しんでいただく。
- ② 参加者七三名。高齢な方も多く、長い下り階段を心配したが、全員無事に帰ることができた。案内の先生のおかげでスムーズに進行でき、参加者にも喜んでいただけた。



新しいモノ

もくもくフォーラム in しまだ



- 4 清水國明もくもくトーク
- 5 振動実験ビデオも上映
- 6 ロビーでは木製打楽器の展示
- 7 ウキウキウッディコンサート
- 8 参加者にバラの鉢植などをプレゼント

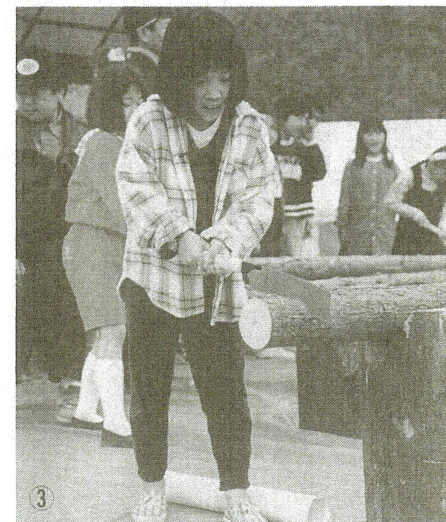
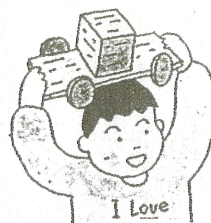
(4~8は市民会館)



サシの模索

去る3月23日(土)~24日(日)の2日間にわたり、島田市において「もくもくフォーラム in しまだ」を開催しました。

本紙では、この運営責任者の滝浪委員長に、本年度の催事を振り返り、ご意見を伺いました。



- 1 トントンとんかち教室
- 2 テビッコ満杯のミニ四駆コーナー
- 3 屋外ステージでは丸太切り競争



本年度事業を振り返る

運営委員長 滝浪龍司(静岡緑社会)



容易ではない再構築

本年度の企画を検討するにあたり、島田を中心とした中部地区の木青連会員でスタートした運営委員会の課題は、

- ① もくもく「まつり」という名称
- ② 一日使い切りにしてはちよつと「過大な事業費と労務」
- ③ 屋外イベント中心の「事業企画」

の三項目を抜本的に見直し、新しいもくもくの方角性を提案することでした。

このことは、ややもすると来場者数のみで事の成否を判断しがちな、PR効果に対する「新しいモノサシ」の模索でもありました。

もとより、十月八日の「木の日」前後の定期開催が、地域の事情により順延されたため、「木の日」とは切

消費者本位のきいて、みて、ふれて

おかげさまで両日共天候に恵まれ、島田市中央公園を会場とする屋外イベントは大盛況のうちに終了することができました。

一方、今回の目玉企画だ

った屋内催事は、従来の来賓お招きした開会式典を取りやめ、「木都」島田の独自のローカルカラーを取り込み、消費者本位の「きいて、みて、ふれて」の企画に徹しました。

共催団体の県森連、県木建にも経費の負担をお願い致しましたが、大規模な構築物の設営等これまでのような支援協力をいただくことなく、木材業界(運営委員会)主導で坦々と企画準備を進めました。

新しい催事を追求

昭和六一年度に浜松で、「もくもく」としてスタートしたイベントも今回で三巡しました。すでにこの十月には、掛川市を会場に、平成八年度の「もくもく」が計画されています。

厳しい結果を受けとめて

結果的には、入場者の点でかなり厳しい結果となり、運営委員会としても今後のため反省材料を整理してみました。

その第一は、年度末開催のためか、主催三団体の核となるべき木材業界内部の参加が低迷したこと。

第二は、行政絡みの産業まつりとの同時開催の安心感と企画準備の立ち遅れか

最後に、今回の実行、運営に関わった皆様に対し、本紙面をお借りして御礼を申しあげます。

地域色、キラリと

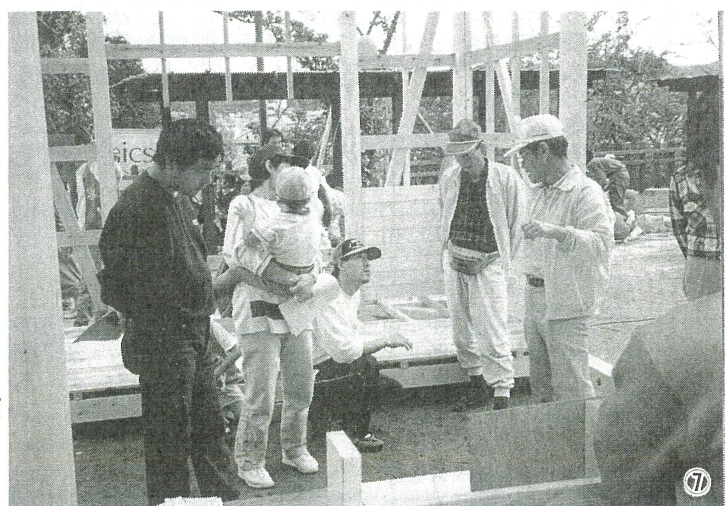
「もくもくまつり '96 in 掛川城」開く



去る10月13日(日)、掛川市において「もくもくまつり '96 in 掛川城」が開催されました。
本紙では、運営責任者の内藤忠雄委員長に、催事を振り返り、ご意見を伺いました。



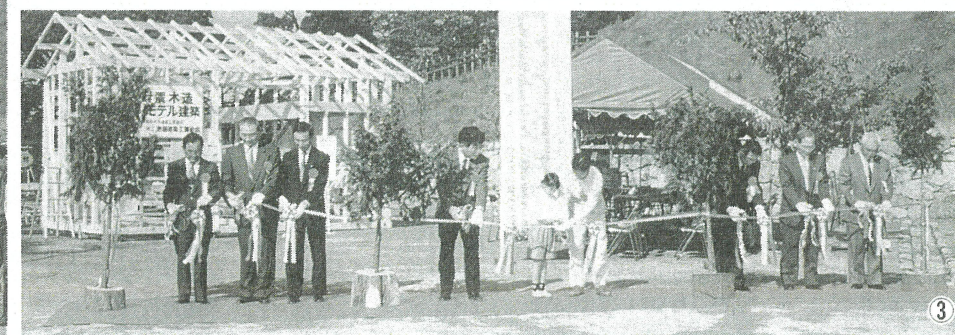
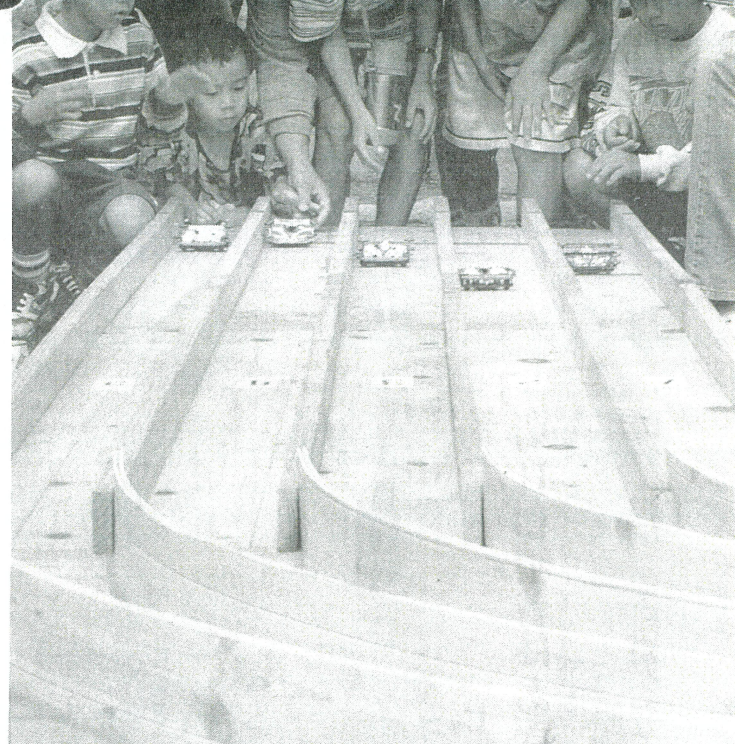
⑧ ⑦ ⑥ ⑤
図面持参で耐震診断
熱心に説明する担当者
無事終了しホッと一息、終了式



光る企画で



① 子供達に大人気の木製サーキット
② 本丸広場を一望
③ テープカット
④ 梅林利彦実行委員長(左)と内藤忠雄運営委員長(右)



本年度事業を振り返る

運営委員長 内藤忠雄(天竜木産協)



四巡目のもくもくは…

西部地区では四回目を迎え、名称も親しまれてきた「もくもくまつり」。これまでの三回は地区木青連会員が中心となり、企画、予算、来場者の数等、まさに一大イベントとして、若手木材業界人としての心意気が行動となり、素晴らしい評価も得てきました。しかしその反面、PR事業費の掛かり過ぎ、活動するメンバーが多忙過ぎる、持ち回り開催の中での拡大路線等々改善すべき問題もありました。

人的交流もひとつの目的

今回は、様々な意見が取り入れられ、掛川での開催が決定しました。運営委員会のメンバーも掛川、太田川、磐田、浜北の各木協と天竜材友会、二俣十八日会、竜川竜友会、浜松青年木材クラブからの代表者で構成され、分担活動す

新聞広告も取り入れて

事業内容としては、まず十月十日付で、静岡、中日の両新聞西部版に「ちよつと木」になる話をしよう」というイベントの告知を兼ねた木材、木造住宅のPRを掲載。当日の企画としては、磐田

木協と磐田建築工業組合の皆様が作り上げた耐震木造住宅の構造モデルの展示。そして、小笠建築組合の協力を得て天竜材を豊富に使った親子木工教室は、家族連れにも大人気で、新聞紙上にも取り上げられました。

固定概念にとらわれず

今後とも、「木の日」記念催事は活動が大変、金が掛かり過ぎるなどの固定概念や従前の形式にとらわれず、開催地域の特色を活かし「木材関連業界もこんなことをやってるんだ」という、キラリと光る事業を企画継続してゆきたいものです。

スモールポケットで

予算面では、初めから目一杯ギリギリのスモールポケットで、各催事の設営や運営を担当された皆様には、大変申し訳なく思っています。各セクションの盛り上がりは欠かさないためにも、余裕のある補正なり予備費を設ける必要性

る方法を取りました。

今回の「もくもくまつり」では、三業界のメンバーの交流と各地区の業界若手が楽しく、積極的に参画してくれる場を提供することも一つの目的でした。

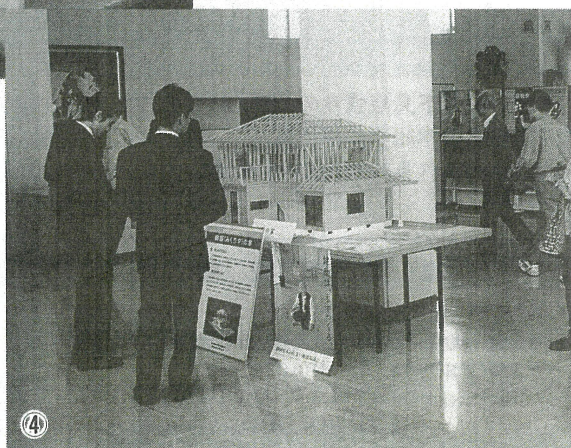
当初は、①方針が定まらない、②構成メンバーが広範囲のため、場所、時間等に限度がある等、運営面でややもたつき、メンバーをイラつかせ、迷惑を掛けました。それでも委員会活動のスタートが早かったことと、役割分担が明確化した時点で、何とか先に進むことができました。

また、今回の実行、運営に関わった全ての皆様に対し、本紙面をお借りし、心より感謝申し上げます。



原点に立ち返り、

- ① 吉田弥明先生基調講演
- ② 受付ロビーで
- ③ パネルディスカッション参加者の皆様
- ④ ロビーでは御殿場型木造住宅のモデル展示も
- ⑤ 多くの参加者は熱心に聴講
- ⑥ 植樹祭・関係者で予定地に記念の杭打ちを



不況の中での記念催事をどうするか論議を重ねた結果、『木の日』の意義を生かし、一日で終わらせず、会員の出費を少なく」を合言葉に木の感謝祭を考えました。

沼津地区は、都市緑化事業を担当することとなり、県や沼津市に趣旨を伝え、植樹地を探しましたが、いずれもノー。市街地緑化の難しさを痛感しました。既に行政の年間計画の中に割り込む余地がなく、善意の押し付けかなと自問自答し、ギブアップ寸前でした。

緑化事業・後世に残る林を育てたい

やさしさいっぱい 木の感謝祭'97
運営副委員長 大川 一浩（沼津木協）

場所探しに苦労していたところ、沼津木協の役員の尽力で、千本公園の一角に植樹が可能となりました。ただし、条件があり「松だけを、二月に、植樹専門家の手で」ということでした。協議の結果、これを受け入れ、十月五日、関係者約三十名が植樹予定地に集まり、記念の杭を立てました。

「木の日」の原点に返り、みんなで考えた「植樹祭」、来春二月には関係者のご協力で「松」を植え、後世に残る林に育てたいと思っています。

備作業でした。

ただ逆に、短期間にこれだけのことができたのは、担当した沼津、裾野、御殿場の三木協役員が時間の少なさからくる危機感から、一丸となったためだと考えています。

今後への申し送り事項としては、何よりも県木連のPR委員会や理事會において、「木の日」の記念催事の在り方について、早急に十分な話し合いをしていただきたいと思っています。従来どおりの持ち回り担当制で

実施するのか、あるいは各木協が、十月八日の「木の日」に合わせ、独自の企画で、それぞれの地域でPR事業を行うのか。

他にも方法はいくつか考えられますが、より地域に密着、浸透する「木の日」の記念催事を考えた場合、従来通りでは、資金、労務、企画のいずれの面でも限界のような気がしてなりません。無理なく、無駄なく、自力で継続してゆきたいものです。

3点セットで

「木の日」記念催事を振り返る



去る十月十一日（土）のパネルフォーラムをもって、本年度「木の日」の催事が終了しました。企画準備の立ち遅れ、経費、労務、企画の抜本的な仕切り直し等、転換期のイベントを振り返り、実行部隊たる運営委員会の役員にご意見をお寄せいただきました。原点に立ち返り、新聞広告、植樹祭、パネルフォーラムの三点セットの企画で実施した本年度事業への評価や次年度に向けた提案など、事業の総括は……。

無理なく、無駄なく、自力で継続を

やさしさいっぱい 木の感謝祭'97
運営委員長 渡辺 俊彦（御殿場木協）

新聞広告・内容整理が必要か

新聞広告掲載については、木の感謝祭の事業内容の告知、室内空気汚染、また、シックハウス症候群についてなど、少々盛りだくさんの内容を掲載し過ぎたようです。

予算の都合上、たった一回の掲載しかできず、仕方のないことだとは思っていますが、掲載スペースを小さくしても二、三回に分けて、もう少し内容を整理した方が良かったのではないかと反省しています。

フォーラム・対費用効果を考える

従来の屋外イベント主体の「もくもくまつり」では、集客効果を高めるための企画が最も重要であり、また、一番難しいことです。これまで

の担当者は、イベント慣れしたユーザーの気を引くことの難しさを痛感されたのではないかと思います。

今回のパネルフォーラムでは、来場者数の多少にのみ注目することなく、むしろその事業結果を、新聞、ラジオ等マスコミを通して一般ユーザーに伝えることを最大の方針として計画しました。対費用効果からこの方法が最も良いのではないかと考えています。

申し送り・十分な事前協議を

今回最も反省すべき点は、スタート遅れの一言に尽きます。実施決定が七月上旬、企画がまとまったのが八月に入ってからということで、かなりの部分で準備不足による支障があり、常に時間に追われながらの準備